



# Stroke Center 脳卒中センター

[脳神経外科へ](#)

[脳神経内科へ](#)

一秒を救う 一生を支える  
脳卒中治療の最前線へ

【顧問】 川田 憲一  
津田 和彦  
【脳卒中センター長】 佐藤 裕

【施設認定】  
日本脳卒中学会認定 一次脳卒中センター (PSC)  
日本脳卒中学会認定研修教育病院  
日本脳神経外科学会認定教育施設  
日本脳神経内科学会認定教育施設

2024年 治療実績

脳梗塞

274 件/年

脳内出血

83 件/年

くも膜下出血

19 件/年

その他 急性期脳卒中

11 件/年

脳卒中

819 件/年

## ご挨拶

脳卒中は本邦では死因の第4位、寝たきりになる原因の第1位長期入院の原因として上位を占める重要な疾患です。重篤な後遺症により患者様のみならず、支えるご家族にも大変な負担が強いられることとなります。当院では、このような脳卒中の患者様に対して24時間365日すべての救急要請を速やかに受け入れ、少しでも脳卒中の患者様の予後を改善するため、急性期脳卒中診療担当医が迅速に対応できる体制を維持しています。急性期脳卒中では、脳出血、くも膜下出血などの出血性疾患、急性動脈閉塞などに起因する脳梗塞など様々な疾患を扱います。特に急性期脳梗塞では、回復可能な治療時間が極めて短いため、血栓を溶解するrt-PA(アルテプラゼ)静注療法を速やかに実施し、更に機械的血栓回収療法をはじめとした高度な脳血管内治療を迅速に行う事が重要です。

そのような脳卒中に対して、2018年 脳卒中・循環器病対策基本法が 第197回国会にて制定され、厚生労働省により循環器病対策推進基本計画が進められています。それを受けて脳卒中学会が主導で認定施設の整備が行われてきました。2019年より 松阪中央総合病院は 地域医療を担う中核病院として 日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター (PSC) に認定されました。

これまで地道に脳卒中診療を続けて参りましたが、一般市民の皆様や様々な医療従事者にもわかりやすくするため 2025年10月より 脳卒中センターを標榜することとなりました。

## 当院の脳卒中診療体制



CT, MRI, アンギオ等の診断治療機器が 24時間365日稼働できる体制を取っています。また、SPECT, PET, 各種エコーなど診断補助設備も充実しています。更に院外の待機医師携帯端末にも速やかに画像が転送される遠隔画像診断支援システムを運用しています。

rt-PA(アルテプラゼ)静注療法はもちろん、機械的血栓回収療法をはじめとした高度な脳血管内治療も常時可能です。

脳卒中学会指導医2名、専門医1名、脳神経外科専門医4名、脳神経内科専門医2名、脳神経血管内治療専門医2名、救急医学会専門医3名、リハビリテーション専門医1名など (2025年現在) 各分野の専門医師が充実しており、より高度な医療サービスを提供できるようにしています。

当院ではドクターカーを2台運用しており、救命救急専門医、救命救急士、救命看護師が最前線で活躍しています。救命救急室ERに到着後、【コードレッド】という全館放送が発動します。各部門の院内スタッフが 同時に 診断、治療 の準備を開始します。

入院後は、脳卒中ユニット (SU) 6床、ICU 6床、さらに救命救急病棟など 高度な急性期管理が可能な設備を有しています。また、リハビリテーション専門医が常勤で勤務しており、超急性期からリハビリテーション治療が可能となっています。

更に 早くから脳卒中ホットライン、および 救命救急室専用ホットラインを運用しており、救急隊や地域の個人病院、療養型施設など 病院窓口を介さずに直接 脳卒中診療医 または救命救急室へ連絡できるシステムを構築しています。速やかな症例の相談、搬送から治療開始への時間短縮などを実現し、各医療機関との連携を強化してきました。地域の皆様に信頼される 脳卒中センター としての役割を十分に担えるよう 今後も努力を重ねて参ります。

## 脳卒中相談窓口



脳卒中患者およびそのご家族に対して わかりやすく丁寧な相談支援を行うために 当院では 2022年より 脳卒中相談窓口を開設しています。社会福祉士7名、リハビリテーションスタッフ11名、看護師13名 合計31名 (2025年) の脳卒中学会認定 脳卒中療養相談士 が活動を行っています。入院中、退院後を問わず お困りの際には是非ご相談下さい。